



# JEG ニュースレター 149号

www.jegschweiz.com

2015年2月1日発行

## 小さな証

世界遺産のぶどう畑がレマン湖畔に広がるスイス・フランス語圏の地に待望の家庭集会が誕生しました。 P2



## CS降誕劇

スイスJEGでは、12月14日、90名の参加者をお迎えし、クリスマス伝道礼拝を守り、CS降誕劇が演じられました。 P3



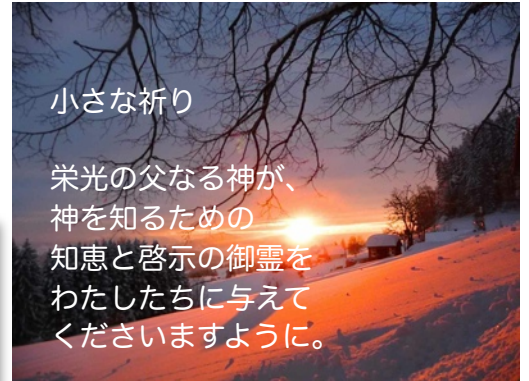
## 新会堂への移転

今年創立22年を迎えるスイスJEGは、新会堂に移転し、決意新たに宣教の働きを始めます。 P3



## 世界の神の家族から

キリスト者はイエス様を頭とする教会の家族、今年も世界中から沢山の新年の挨拶が寄せられました。 P4



## 小さな祈り

栄光の父なる神が、神を知るための知恵と啓示の御霊をわたしたちに与えてくださいますように。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためである。」

ヨハネ15：16 スイスJEG年間聖句

## 2015年を迎えて



スイス・アッペンツェラーランドの元旦

新しい年も、スイスJEGは、みことばを心に刻みつつ、同胞の救いのために、主と共に一步を踏み出しました。



1、1月11日のスイスJEGの新年礼拝は、たマイヤー牧師により取りがれました。「実を結ぶ人生」をテーマに、ヨハネ15章1-8、16節より、①選ばれる、②任命される、③行く、という3つの動詞を駆使し、分かり易く説き明かされました。

このヨハネ15章16節はスイスJEGの今年の年間聖句です。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためである。」

2、新年礼拝後の愛餐会のなかで、松林兄撮影編集のDVD“スイスJEG2014年の歩み”が上映され、スイスJEG創立20周年記念として企画され南ドイツにあるハウス・ベートルで開催された特別セミナー（講師：岡田大輔牧師）と10月12日から19日までの聖地旅行（マイヤー牧師を団長として15名が参加）をはじめ主がスイス教会を豊かに祝福し、成長させ、導いてくださったことを映像を通して再認識し、主に栄光を帰しました。このDVDは<https://www.youtube.com/watch?v=WgCLxnOYotA> でご覧いただけます。

3、2014年のスイスJEGクリスマス伝道礼拝は、12月14日（日）に90名の参加者とともにお救い主の降誕をお祝いしました。マイヤー牧師は、ユダヤ人のみならず全人類の救い主としてイエス様の誕生は、旧約聖書に既に度々預言されていたとして、イザヤ書やミカ書などからその深い関わりをメッセージの中で解き明かされました。

この日のメッセージ”低くなられた主”はスイスJEGのHP説教専用サイト<http://jeg.meielisalp.ch>でお聴き頂けるほか、CS/ユースによる降誕劇は<https://www.youtube.com/watch?v=PEDNHUu-TbU>でご覧頂けます。



クリスマス伝道伝道礼拝と祝会スナップ

4、第22回・スイス日本語福音キリスト教会の総会が、1月25日（日）13時から14時45分までクリショーナ教会の大ホールで開かれました。「スイスJEG2014年の歩み」を振り返りながらの活動報告により、主の体である教会の礼拝が、実に多くの尊い奉仕によって守られてきたことを覚え、会長から深い感謝の念が伝えられました。決算報告、本年度の活動計画、2015年予算案などが承認されました。また、今回から役員（長老）選出方法を聖書に基づき作成

された改正案の説明／承認の後、教会運営の重責を負う新役員の新役員承認投票が行われ、その結果、原憲二兄、松林幸二郎兄、フォンプラント・コンラディン兄に加え、新役員として役員会推薦の今村泰典兄が承認されました。

昨年懸案となっていた教会移転は、移転実行委員会による調査検討が加えられ、12月28日に新会堂候補教会を見学するに至りました。新会堂は現在地からさほど遠くなく、百数十人収容できる礼拝堂、CS、ユース、幼児そして会議などに必要な十分な部屋数とインフラを備え、公共交通機関にも近く、周囲はオフィス／工場街であるため隣人に迷惑を及ぼす可能性も低いなどといった理想的な条件が揃っていることを移転実行委員／役員が判定しました。総会においてフォンプラント移転実行委員長による詳しい経過説明の後、移転動議にかけられ全員一致で、今年中に現在賃貸しているクリショーナ教会からドゥーベンドルフの新会堂 [Mitternachtsruf](#) に移転することが決まりました。



5、2月27日（金）の15時から、フランス・ストラスブル（7 Avenue de la Forêt-Noire, 67000 Strasbourg）において第22回「聖書のお話を聴く会」が、ミラノ賛美教会・内村伸之牧師をお迎えして開かれます。ストラスブルで学ぶ学生を対象に福音の種蒔きとしても用いられてきたこの会は8年目を迎えようとしています。お心当たりの邦人をご存知でしたら参加をお勧め下さるとともに、お祈りで支えて下されば幸いです。詳細は今村泰典兄まで [yimamura1019@gmail.com](mailto:yimamura1019@gmail.com)

6、1993年の夏よりデュッセルドルフ、スイス、フランクフルトと海外邦人宣教に情熱を注いでこられた田辺正隆牧師、みや子先生は、21年半の長きに渡るお働きを終えられ、来る3月12日に新しい奉仕先の祖国に帰国されることになりました。ご夫妻は、2001年から2010年までスイスJEGの牧会の任を担われました。

2月8日（日）、最後の御奉仕として田辺牧師にはスイスJEGのために「最初のしるし」をテーマにヨハネ2：1-11からメッセージを取り次いでいただきます。尚、礼拝後の愛餐会では、これまでの尊いお働きに感謝し、ささやかな送別会を催しますので、お時間のある方はお残りください。尚、2月7日（土）の14時からヘス明美宅で、田辺牧師ご夫妻を囲んで”茶話会／お別れ会”が持たれますので、参加されたい方は、ヘス姉までご一報いただき、最後の交わりをお楽しみください。

7、オーニングラー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・日本語ミサ便り、パリ教会パルターージュ、イザール通信、夜越山からの便り、アジア宣教フォーラム、ミッション”宣教の声”、ハーベスト・タイム・ミニストリー「今週の視点」が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください

世界に散らばる神の家族から



新年のご挨拶

東京都は久留米キリスト教会の  
シングリスト美智子姉から

2010年の記載を最後に疎遠になっていましたが、近況報告とご挨拶させていただきます。

スイス日本語教会の皆様、新年明けましておめでとうございます！今年も恵多き一年になりますように、お祈りしています。

去年の夏には、スイス日本語教会に久しぶりに集うことができ、良き交わりもさせていただいて、感謝でした。今年の夏には、第二子出産予定なので、スイスには行けませんが家族四人でまたお会いできるのを楽しみにしています。

さて、私、美智子はつわりがあるものの、健康が守られて感謝です。主人のウルスですが、12月にあった健康診断で甲状腺に大きな腫瘍が見つかりました。良性の疑いが高いということですが、CTスキャンをしたところ、肺にも小さな腫瘍が見つかり、呼吸器科も受診しなければならなくなりました。



主のなさることをいつも手放して喜べるわけではないですが、その先にいつも希望があることに感謝します。ウルスの病について、お祈りに覚えていただけると感謝です。

スイス日本語教会が主のよき器としてますます用いられていきますように、お祈りしています。

2008年のコンスタンツ大学交換留学後、ニュージーランドへ戻り、2010年12月、宣教師になる準備をするため日本に帰国しました（御心ならば、将来は宣教師としてスイスに戻ってきたいと思っています）。すると東日本大震災が発生。彼女（現在は妻）は岩手県にいたので、心裂ける思いでした。

震災直後、地元の鳥取県から栃木県（峰町キリスト教会[www.mccjapan.jp](http://www.mccjapan.jp)）に単身引っ越し、その後、実家の祖父が認知症で入院（現在も）。父親の末期ガン宣告。急死に一生を得た妹の自殺未遂。その妹がイエス様を信じ、受洗。父親の救いと受洗。僕の結婚。父親の死。奇跡的に命助かった祖母の交通事故。もう一人の妹の離婚。僕の体調不良（めまい、頭痛、息苦しさ：強制ドクターストップによる10ヶ月の休職を経て転職）。息子、理央（りおう）の誕生（Liorはヘブル語で「神様の光のプレゼント」という意味）。母親の完治不能緑内障の発病。妹と自殺未遂のキッカケとなった元交際相手の復縁・妊娠・結婚などと怒濤のような日々を過ごしています。



現在は、体調万全ではありませんが、宇都宮市国際交流協会勤務する傍ら、

峰町キリスト教会にて、ディボーションミーティングでのメッセージ、礼拝通訳などの奉仕させていただいています。今月からJTJ宣教神学校(<http://>

日出ずる国から

オアシスチャペル  
宮城県は利府キリスト教会の  
菊地祥彦神学生から

JEGのみなさん、こんにちは。2015年が始まりましたね。新年もみなさんの歩みに主の導きと祝福が豊かにありますようにお祈りします。

2014年を振り返ると、僕としては二つの忘れられない出来事がありました。一つは「結婚」です。紆余曲折がありながらも、妻と無事に結婚できたことは神様の憐れみと導き以外のなにもありません。もう一つは「復活ホヤ」です。支援し続けてきた石巻市のある地域で、震災後初めてとなるホヤの水揚げがされました。漁師さんのご厚意に預かり、船の上で獲れたて超新鮮なホヤを食べさせていただきました。すべてが流され、瓦礫しかなかった場所が復興し、夢だった復活ホヤをいただける喜び。その味は格別でした。みなさんのお祈りとサポートにも心から感謝いたします。

2015年も主の御手の中で歩めることに感謝します。永遠に変わらず私たちを導いてくださる誠実な主を誉め称えます！



宇都宮は峰町キリスト教会の  
矢部晶宏兄から

スイス日本人教会の皆さま、シャローム！明けましておめでとうございます！

[www.jesustojapan.com](http://www.jesustojapan.com)牧師志願科コースも通信で受講します。何度も泣きました。何度も「もう無理だ…」と思いました。しかし、その度に主の力強い愛の御手に支えられ、今ここにいます。スイス日本人教会の皆さまに会いたいです。また一緒に主を礼拝したいです。その日が来ることを期待して、2015年も皆さまの上に、主の豊かな祝福をお祈りしています。

東京は葛飾区、  
小岩栄光キリスト教会の  
野村和子姉から



スイスのみなさま。あけましておめでとうございます。いつも内容豊かなニュースレターをありがとうございます。「スイス教会のNL、毎回力作ですね」と、スー・スパ

ンフォード先生がおっしゃったのと、確かにその通りですね。

スー先生が召されたと聞き、本当に寂しいです。私がスー先生と初めてお目にかかったのは、2005年のアドベントのころでした。故・安部哲兄の伝記『この愛に捉えられて』取材のためお訪ねしたブリーネの「祈りの家」に、先生も来ておられたのでした。先生は、安部兄の1つの思い出を、まるで目の前の出来事のように鮮明に語ってくださいました。それは彼のイエス様への愛と信仰を象徴するようなエピソードで、安部兄の生涯の終わりを一段と印象深いものにしたと言えるでしょう。

拙著の最後のページに書かせていただいたそのエピソードを読むと、私は今でも涙が出てきます。安部兄と一面識もなかった私のために、あの時、神様がスー先生と出会わせてくださり語らせてくださったのです。

スー先生に「来日した時には、ぜひ拙宅にお泊りくださいね」とお願いし、日本でお会いできるのを楽しみにしてきましたのですが、



アフリカで医療活動されるスー先生。

2012年、オランダでの夏季集會にはご欠席でお目にかかれず、2013年のフランスでの夏季集會には私のほうが参加でき

ず、それきりになってしまいました。スー先生。ありがとうございました。今度は天国でお会いしましょうね。

新年を迎え、このような信仰の先輩たちを通して注がれてきた恵みを忘れることなく一步一步進んでいきたいと願われます。皆様の祝福を東京の片隅からお祈りしつつ。(ペンネーム・野口和子)



東南アジアから

ベトナムはハノイの  
福森真樹姉から



あけましておめでとうございます。いつもニュースレターをありがとうございます。皆さんの

近況やお証を通して主から温かな励ましをいただいています。

私は18年前に英国で救われ、帰国後東京に滞在した3年の間に主人もキリスト者とされて、それから再度約10年間、ハンブルグ、フランクフルト、パリに居りました。その間、在欧諸教会・諸集會の皆さまとの交わりのうちに多くを教えられ励まされ、主をかしらとするみからだにある恵みを頂いてきたことを感謝します。パリの後2年間の大阪滞在を経て、一昨年よりベトナムのハノイで暮らしています。

主人がベトナムに転勤すると聞かされた時期は、大阪での教会生活(帰国後1年余り探しに探してやっとたどり着いた教会でした)がようやく軌道に乗り始めた時で、帰国直後から続いていた自宅での帰国者バイブルスタディも祝され(スイスから帰国された姉妹も集って下さっていました)、まさにこれからが大阪に私たちを帰された主が何をなさるかを見させていただく時と、期待と喜びに満ちていた時でした。それなのに大阪から離れる、しかも行き先は共産国の発展途上国。そこに主の群はあるのだろうか、ここでも私たちはふさわしい養いをいただ

けるのだろうか、と不安で泣いていた私を帰るべきところに立ち返らせてくれたのは、欧州から帰国されたある姉妹のひと言でした。

「きっとそこに真樹さんが出会わなければならないたましいがあるはず。」そして、愛と憐れみに富まれる主は決して私たちをも捨て置かれず、ハノイでは素晴らしいインターナショナル教会の交わりの中に入れられ、願ったものを遥かに超える養いと励ましをいただいています。そこには、主を愛して主に従いたいと願う思いは国籍や言語や肌の色や文化を超えてひとつなのだ、という天国の前味があり、感動的です。思いがけないきっかけで来越直後から我が家でスタートした日本語バイブルスタディには聖書を初めて読むという方々を含めて次々に素敵な参加者が集められ、主ご自身がなさることの不思議を体験させていただいています。



日本語バイブルスタディは週一回。楽しい集いです。

昨年秋にはその中からイエス様を主と告白される方が起こされ、御名をあげています。日本語での礼拝は現在月に一度もたれています。無牧の小さな群ですが、一昨年頃からこの群のことを覚えて祈って下さり、来訪して励まして下さる日本人牧師先生方が時宜にかなって備えられるようになり、また、アジアの他地域の主の家族とのネットワークも結び合わされ始めており、主の顧みを感じています。



月一度の日本語集會。昨年はシンガポールから松本先生を迎えて豊かな励ましの時でした。

スイスの皆さんの聖地旅行特集を拝見し『まさにそこに行かなければできない体験』をお分ち頂けたことに感謝しますとともに、今自分が置かれている場所で体験させていただいていることに、もっともっと誠実でありたいと思われました。置かれている場所は遠く離れても、神の家族の交わりを通しての励ましは、いつも大きな助けです。これからどうぞよろしく願いいたします。

ヨーロッパの  
日本語集会から



チェコ・プラハはコピリシ教会の  
黒田閑恵姉から

スイス教会の愛する兄弟姉妹へ。

気がつけば、クリスマス、新年があつという間に過ぎ去り、今年がしっかり始まっています。それを思うと、夏もすぐそこ、外は今吹雪になっているにもかかわらず、です。



蜂蜜作りに精を出す

のごとき私であります。

プラハは、皆さまご存知のように、ルターに先立つ100年前にヤン・フスが宗教改革をとらえた地で、今年に没後600年記念の年です。世の流れに逆らうことの厳しさを私たちはよく知りますが、それでもそれをした強い信仰の大先輩であるヤン・フスを思います。東欧で開かれるはじめての集いです。これを機に、東へ目を向けていただければうれしいことです。



第32回キリスト者の集いはプラハで

昨年、私個人の10大ニュースは、ダントツ1位がイスラエル旅行でした。以来聖書の地が現実的になり、イスラエル関連の情報には自然と耳をそばだてるようになってきました。今年の集いが皆さまの2015、10大ニュースに入れますように。

人手の少ないプラハ日本語礼拝ですが、主に依り頼み祈りつつ準備を進めて、恵みに満ちた集いとなるよう願っております。兄弟姉妹もどうかお祈りください。

ノルウェイはブリーネ祈りの家の

森 功・よし兄姉から

主に在る教会、集会の皆様新年明けましておめでとうございます。

去年もクリスマスや新年のご挨拶のニュースレター等頂きながら、返信もせずにおります事、大変失礼しております。スイス教会のご好意で、このような形で御礼申し上げることが出来ます事、大変ありがたく思っています。

2014年の祈りの家の歩みは、集会の中で起こる問題に引き込まれ、宣教



ブリーネNo.1のバーベキューは、森家で！！

の働きが、内向きになるといふか、守りの体制になってしまっていたことを感じています。今新しくスタートしたこの2015年は、私たちの主に真っすぐに向き合い、全てを主に委ねて一歩々々歩めたらと願っています。私たち夫婦がブリーネで奉仕を初めて去年で25年が経ち、去年の3月に長年ノルウェーに暮らす年配の方が洗礼に導かれ、安倍兄弟に御言葉の種を蒔かれた人で、集会に集っておられる殆どの人が去年までに洗礼を受けました。今年から私たちの新たな働き（チャレンジ）が始まると思っています。

去年12月の締めくくりのクリスマス集会はファミリークリスマス集会と、コアメンバーを中心としたクリスマス礼拝と祝会の2つの集会を持ち、特にファミリークリスマス集会は、皆さん未信者の方ばかりでしたが、大人と子供を合わせ、32人集まって下さり感謝でした。この方たちに対する宣教がこれからの課題です。又コアメンバー中心のクリスマス礼拝及び祝会には、オスロから金子兄弟が来て下さり、御言葉をとりついで下さいました。私たちの集まりを愛してくださる兄弟と、一緒にクリスマスをお祝いすることができました。

この一年皆様の教会、集会の上に神様の溢れるばかりの祝福がありますようにと心からお祈り申し上げます。今年も皆様と主に在って結ばれて、祈りを共有できますことを本当に嬉しく思っています。今年もよろしくお祈り申し上げます。

ノルウェイはオスロJCFの

金子進兄から

新しい年に新しい夢の計画を描いて始動しています。4年近くかかりましたが聖書探索旅行記の11巻目が昨年末に出来あがりしました。「おきあがりこぼし」のように数回にわたる病と闘いながらも、起き上がっては探索旅行を続けられたのは愛する兄姉、先生方のお祈りと励ましのおかげです。心から感謝します。

本年度は健康が許されれば、ゆっくりとした旅行や奉仕が計画されています。1月の25日から「神の山・ホレブ」の完成の感謝とお礼を兼ねてシナイ半島に2週間ほど出かけます。協力者の皆さんと思い出話に花が咲くでしょう。同時に保養を兼ねてゆっくりと、海辺や山間、オアシス巡りで健康を養いたいです。春にはまた、聖書を片手に地中海、エーゲ海周辺の探索旅行を計画しています。しばらく休んでいました「パウロの足跡」探索です。夏と秋はかなりの予定が入っています。「無理をしないで意地をほらないで」の賛美歌詞を口ずさみながら神様と共に歩きたいです。思い出されましたらお祈りください。



ブリーネ祈りの家、クリスマス礼拝にて

オスロJCFは祝福されています。1月は礼拝に14名、親睦会には合計22名の参加があり、若い新しい方々が増えて感謝なことです。オスロJCFは年に2回ほどヨーロッパに滞在される先生方を招いて、春と秋に特集を組んでいます。昨年は井野先生、斎藤先生が奉仕してくださいました。親睦会は持ち寄りですが、中級ホテルのバイキング形式のようで、豪華な夕食とデザート・コーヒータイムの間にショート・メッセージがあります。こうして多くの方々に神様を紹介しています。ドイツで奉仕されている斎藤先生の話のなかに「教会とは食べる所です」とありました。まさにオスロJCFがそのような所です。神さまの言葉と様々なマナを同時にいただいています。食べきれなくて余りますが、皆さん日本食はお持ち帰りが常です。オスロでは心も胃袋も祝福されています。

「幻なき民は滅びる」とは良く言われますが、今年も自分の夢を神様に託して、神様と歩調をあわせ、出過ぎず、離れすぎず、いつも一緒に歩みたいです。皆様方のご活躍、遠くにあつて祈っています。